

2022年(令和4年)

8月10日 第1885号

発行 足立区  
編集 報道広報課  
住所 〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
☎ 3880-5111 (代表)  
FAX 3880-5678  
✉ voice@city.adachi.tokyo.jp

# あだち — 広報 —



区制90周年記念企画

## 語り継ぐ

### あだちの戦争

終戦から77年。戦争の記憶は年々失われつつあります。今号では、区内や疎開の地で戦争を体験した4人の方々からお話を伺いました。

問先 広報係

☎ 3880-5815

戦争体験者のインタビューは6・7面、足立区の戦跡マップは12面へ



当時の吉岡さん

インタビューのロングバージョンはコチラ



戦争を経験したからこそ、伝えたいこと  
私は今まで戦争のことをほとんど話してきませんでした。戦争のことを語る人はたくさんいましたし、「当時のことをあまり話したくない」という気持ちもありました。  
しかし最近になると、当時の話ができるのが私くらいしか残っていないんです。戦争というのは、結局は殺人。人類にとって一番深いことだと思っています。だから、実際に戦争を経験した私が話すことで、「戦争だけはしてはならない」ということを皆さんに伝えたいと思っています。

まさかアメリカと戦争するとは思わなかった  
当時私は、攻撃機の操縦士の後で、爆弾を落とす役割を担っていました。太平洋戦争が始まる前、私たち下士官兵はアメリカと戦争をすることを知りませんでした。真珠湾攻撃の直前に、私が乗っていた航空母艦「蒼龍」の艦長が訓示を述べたんです。「暴慢不遜ナル宿敵米国ニ対シ愈々十二月八日ヲ期シテ開戦セラレントシ」と始まり、「当艦隊ハ、ハワイヲ空襲ス」と。びっくりしました。そこで初めてアメリカと戦争することを知ったんです。  
「もう帰って来られないな」と覚悟を決め、誰が言い始めたかは分かりませんが、「どうせ死ぬんだから」と全員落下傘バンドを着けずに出撃しました。



よしおか まさみつ 吉岡 政光さん(104歳)

8月に放送する広報番組「1941-1945 戦後77年-あだちの記憶を語り継ぐ」に出演。番組の放送日時など、くわしくは6・7面へ

広報番組連動企画 出演者インタビュー